

●参加者の感想

(1)

阿部先生の講演は技術者が、「明るい未来を創造して具現化するためにはどうしたらいいのか？、どうしているのか？、何を考えるべきか？」ということが非常に丁寧にわかりやすく示されていました。

特に、「予測ではなく、予見・洞察が重要である」。そして、技術者に期待する資質として「豊かな夢を持ち、夢を希望にまで高め、希望をさらに目標とし、その実現に向かって全力をつくす」という二つのメッセージは大切にしたいと思います。

考え方一つで未来は明るくも暗くもなります。我々は「明るい未来」を指向し、責任を持って、どう具現化するかがポイントになると思います。未来を議論することはやはり大切で、「未来は創ることが出来る」ということを実感しました。

(2)

阿部先生の講演は何度聞いても、もっと聞きたい気持ちになります。私が特に意識していきたいと感じたことは、「正解のない世界で、自分の頭で考え、自分の意思を持つこと」です。多くの情報が氾濫する中、何を信じたらよいのかと思う事がありますが、自分の頭で考えることが大事だと感じました。

考える際に考慮しておきたいことは、以下の3点です。

1. VUCA(volatility, Uncertainty, Complexity, Ambiguity)の世界で勝ち抜くために、現状に懐疑的であり続けること、

未来、将来像を描くこと、そして技術改革のインパクトを徹底的に考え抜くこと。

2. 顧客に何を提供できるかという視点は、顧客にどんな体験(コト)を与えているかに置き換える。

3. なぜ行おうのか、課題は何か、誰にどのような価値を提供するのかというストーリーを考える。

そして、「実行とはリーダーの最大の仕事」というお話はズシンと心に響きました。

(3)

○阿部先生の講演で特に印象に残ったことは、

1. まますますオープンなイノベーションが重要になってくる

会社の中でしか使えない専門性、常識にこだわって個別最適化するのではなく、社会で役に立つ専門性、常識を考えて全体最適しなければならない。

2. AIを使う(又は使わざるを得ない)必要性が増えてきて、その関わり方が課題となってくる。

技術がますます高度化していくのに比例して人間も高度化する必要があると思うのですが、AIの進化に対応できるほど人間が賢くなれるか疑問です。技術を進化しようとする欲は本能的で上限がありませんが、それを正しく使えるだけの理性については限界があるのではないかという心配です。

○ワールドカフェでは「叶えたい未来、ありたい未来」というテーマについて、「技術者とAI」をキーワードに、技術者が一生楽しく(=社会に役立つ)仕事をしていられることについて議論を行いました。

豊かな未来は、今の生活を維持できる選択肢が多くあって、普通(80%)の技術者がやりがいを持ちながら仕事で

きること。明るい未来は、優秀(20%)な技術者が自分の仕事を創り出すことができ、それは 将来の選択肢の増加につながっていくことができること。

AI をどう使うかについては、人間を幸せにする、楽しくする使い方ということで、自動運転、健康維持、身体能力や脳力の向上や最適化という候補が出ました。一方で手放せなくなりつつある AI に使われな いように注意も必要ですね。

自分の意見は、あまり明確ではなかったのですが、阿部先生の講演&ワールドカフェで具体的に豊かで明るい未来について考えることができ、広範囲に沢山の気づきがありました。これから、しばらく自分なりに深めていきたいと思えます。

(4)

I. 豊かで明るい“ものづくりの未来”を考えよう

自分の経験と合致するところで、さらに自分なりに深めたいエピソードがありました。

1. VUCA ワールド：自分たちが良くも悪くも、昭和時代の高度成長から混沌とする歴史の流れを潜っている時代に立ち尽くしている気がしました。高度成長の時代のメカニズムと、そのメカニズムの何がどう変わって、今の時代に立ち至ったか。

2. 変革は「辺境から」：主流に登用されたエリート群は失敗が許されないのかな？

3. 10 年後に生き残る企業：常に「マネーカウ」を飼育する牧場と、次の成長事業を複数、かつ、オリジナルで、さらによそとアライメントの柔軟さを構える、こんな経営視点の斬新さに感動しました。このような経営 が、つぶれない経営かなと感じ、MOT の役割を納得しました。

4. 企業が負ける原因：考えられる 5 つの原因は、良くも悪くも「それ、あるわ」と感じる

II. ワールドカフェ：「明るい未来」って何？

今回のワールドカフェで気付いたのは「道州制は技術を救うか？」というポイント。高度成長期に首都圏に進学した学生は、そのまま首都圏に在住したとして、その子息が地方の工場勤務になるものづくりの メーカーを志望して理系に進学するか？という視点に立つと、 ボランティア精神に満ちた有望なエンジニアやサイエンティストはたぶん少なくなるでしょう。だとすれば、道州制と、大学の学費、さらには生活費を支援した国策、地域策での高度技術集積教育機関をセンターに、ものづくり企業を配して、道州の拠点自治体と国が支援すること、沖縄並みの高い出生率と、幸福度と明るい未来を地域の拠点から発信できる将来像を描けるのではないか。

今回は、今までよりもさらにそんな気概が盛り上がった、気持ちが高ぶったワールドカフェでした。